

# 『館長の小窓』



No.22 (H27.1.23)

1月23日(金)、当館講座の「第6回おばらっきー組」を開催しました。

今回は、国際的に活動されている紙工芸作家の加納夫妻を講師にお迎えし、和紙を使った影絵や紙遊びなどを行いました。初めて見る影絵に、子ども達は興味津々。お絵かき(落書き?)や紙遊びなどを通して、笑顔あふれる親子のふれあいと和紙に親しむ良い機会となりました。

また、同時に和紙のふるさとで「カンゾカシキ」がありました。「カンゾカシキ」とは、和紙づくり工程の一つで、和紙の原料となる楮(こうぞ)の木を蒸して皮をはぎ取る一連の作業のことで、地元の小中養護学校生も参加し貴重な伝統技術の一端を体験しました。

なお、今後は工芸館で和紙に漉かれ、市内小中学校の卒業証書として使われるそうです。

## 【おばらっきー組の様子】



影絵には、親子で出演  
(ニヤー、ニヤー)



## 【カンゾカシキの様子】



「カンゾカシキ」は、「楮(こうぞ)」「蒸し器」がなまって変化したようです。

